

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

期末試験答案を採用選考基準で見ると

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)



期末試験の採点をしながら、いつも思うことがあります。これらの答案を企業の採用選考基準で判定したら、半分も通らないだろうなあ、と。かつて採用担当者だった頃、無数の応募書類(履歴書&エントリーシート&小論文)を選考しておりましたが、以下のような答案は、一見(一読ではありません)でアウトです。

与えられたスペースの半分も書いていない＝思考力不足

期末試験の立ち会いをしていると、開始後20分の退出可能な時間になると、すぐに答案を提出して立ち去る学生が居ります。そうした学生の答案の殆どが白紙に近い状態で、諦めが良いものだと感心します。しかし、少しヤマが外れた位で白旗を揚げるということは、正解が1つしかないと思い込んでいる中学生と同じです。カレーライスの作り方を書かれても困りますが、目の前の問題を如何に解釈し、如何に自分の論に展開し、それを丁寧に書いたなら、少なくとも情状酌量されるかもしれません。与えられた課題を持っている限りの知見で何とかするのが社会人で、一見で無思考とわかるのは困ったものです。

略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

ysuzuki@stage41.com

yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp

研究室は一口坂校舎8F

(7月に移転しました。)

品格がない＝コミュニケーション力不足

設問とは関係のない授業や社会の不満等を長々と書いているケースです。こうしたことを書く学生には乱文&毒舌家が多いです。仮にそうしたことを書きたいのなら、表現・敬語を工夫すれば、採点者に知的水準を感じさせることもできるでしょう。どんな試験でも、評価する人間は自分ではなく他人になります。この答案はどのように読まれるのか、ということを考えたこともないような答案では、コミュニケーション力(人を動かす力)がないなあ、と感じます。(本人は気分良く書いて、単位を捨てているのかもしれませんが。)

判読不能な文字＝筋力・集中力不足

さて、もっとあっさり落とされるケースは、もの凄いくセ字で、何を書いているかわからないケースです。教え子の答案なので、なんとか読み取ろうとするのですが、あまりにも個性的すぎて判読できない文字(?)が増えています。スマホで文章とも言えない文章を乱発しているからでしょうか。他人事ながら、自分の名前もそんな字体で書いて恥ずかしくないのかなあ、と感じさせられます。

現代は多忙で、自分らしさが大切にされており、手書きの機会もどんどんなくなっていきますから、これらは現代病といえるかもしれません。学生は男女とも、ファッションやお洒落には熱心ですが、1日3分でも良いので心を落ち着かせ、自分の名前を清書して「ありのまま」を見直すことを勧めたいと思います。



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手。90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。

考えるには自分の中に知識の蓄積が必要だ

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

学生を教えていて、あまりにもものを知らないことに驚く場合があります。私のゼミで、難しい本を読ませたときに、「読書百遍意自ずから通ずる」と言ったところ、その意味を知らない学生が大半でした。歴史上の事実や世界地理についての知識の不足も気になる点です◆考えるためには、自分の中に情報を蓄えておくことが必要です。10 のことしか知らない人と 100 を知っている人がある問題について考えた場合、考えの深さや幅の違いは歴然としています◆「ネットで何でも調べられる時代だから覚えることはさほど重要ではない」と主張する人がいますが、それは学生たちを誤った方向に導いてしまいます。「考えるために必要な知識を蓄えなくてもいいんだ」と解釈して、知識の蓄積に努力しなくなるからです◆知識の蓄積を促すことも、大学教育の重要な役割です。試験は、必要な知識の蓄積を確認する場でもあります。知識教育の重要性は今も昔も変わっていません。

その場で考えることの大切さ

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

授業で学生に「その場で考えること」の大切さを説いている。企業の採用活動で面接官が一番重要視して見ているのは「質問に対してその場で考える力」だ。春学期授業を受講した600余名を受け持つ教員として、全く同じ能力を求められていたのを実感している。これだけの大集団をいかに集中させるか、飽きさせず授業内容に興味を持たせるかには、教員のその場に即した臨機応変な対処が欠かせない。

この学期の出席率を算出したところ、受講登録者数に対して90%、期末試験受験者の95%が毎週の授業に出席していた。毎回の授業で、その場の空気を感じ、その時の出来事や学生の関心に沿った授業進行をした結果といえる。学生に求める資質を教員自身が体現することで、はじめて学生に同様な行動を求めることが出来るようになる。この姿勢を大切に学生と向き合う態度で今後も取組んでいきたい。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。11年~法政大学教員

「受験勉強」の功と罪

教育支援課長 平山 喜雄 (ひらやま よしお)

「受験勉強」と言えば「辛い」「意味がない」「知識偏重」「競争の助長」などマイナス・イメージで語られ、一般的には「罪」として捉えられることが多いようです。文科省も知識偏重の入試プロセスを改めて各人の能力や適性を総合的に判定できる制度の導入を提唱しています。それは多分正論なのでしょう。しかし一方、大学生に対する社会からの評価のひとつに「一般常識がない」というのがあります。「一般常識」って何？という意見もあるでしょうが、「当然中学や高校で勉強したでしょ。なんで知らないの」というレベルだとすれば、多分「受験勉強」をしっかりやった人の方が「一般常識」が身につけていると言えるのではないのでしょうか。そのほかにも勉強の仕方や計画性が身につく、精神力が身につくなど、実は「受験勉強」の「功」もあるのではないかと考えさせられます。自主マスの稲増先生が「就活は最強の教育プログラムである」という本を書いています。が、「辛い」就職活動も学生を成長させるプロセスだと言うこともできるでしょう。確かに受験勉強も高校生にとって「辛い」ものですが、結果的に自分を成長させるプロセスであり、結果的には価値のあることだと思っただけでありません。そして仕事も同じだと思っただけで、みなさん日々の「辛い」仕事を乗り切ってください！



法政大学法学部法律学科卒。
学務部教育支援課長

◆ 8月のプログラム報告

8月の各プログラムが無事に終了しました。猛暑の中、連携大学からの参加者が集まった「はたらく力測定アセスメント(HAT)」でのビジネスゲームでは、初対面のメンバーで構成されたチームながら、活発な動きで大いに盛り上がり、久々の目標額達成となりました。

3回目となる「教材ビデオワークショップ」では、出演協力をお願いした学生たちに急遽、グループワークに参加してもらい、最後に意見をまとめて発表する役も任せました。明るく澁刺と、かつ堂々とした発言ぶりは、大人たちを感心させました。

企画販売インターンシップの活動報告会も開催されました。各大学チームが業績の発表と、取り組みでの工夫や組織活動を通じて学習したことについて、プレゼンを行いました。

◆ 編集後記： 夏です。大学生の夏と言えば長い休みを想像しがちですが、実は8月上旬まで試験があり、その後はインターンシップやボランティア活動、9月になるとゼミ合宿などなど昔に比べると短くなった気がします。大学生の夏の過ごし方も大分変わってきたのではないですか。ところで「青春18きっぷ」ってまだあるのでしょうか？ << 事務局：平山 >>

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局：学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>

産学連携 3D 教育プロジェクト